

## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月14日

上場取引所 東

上場会社名 燦キャピタルマネージメント株式会社

コード番号 2134 URL <http://www.sun-capitalmanagement.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前田 健司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部 本部長 (氏名) 岡田 和則

TEL 06-6205-5611

四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	109	△8.5	△26	—	△43	—	△45	—
26年3月期第1四半期	119	△57.4	△7	—	△21	—	△24	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 △44百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 △25百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△4.83	—
26年3月期第1四半期	△4.17	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われた仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	3,516	1,076	12.4	38.37
26年3月期	3,322	912	8.2	29.97

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 437百万円 26年3月期 273百万円

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われた仮定して1株当たり純資産金額を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	615	33.3	115	—	88	—	63	10.5	6.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社組成ファンド・SPCの組成時期、及び自社保有の投資不動産の販売時期等により、収益実現には一定の期間を勘案する必要があります。その収益実現の時期が、期間損益に少なからず影響を及ぼすため、第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、平成22年3月期より開示を控えさせて頂いております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
詳細は、添付資料P3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	11,396,753 株	26年3月期	9,128,275 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	9,453,621 株	26年3月期1Q	5,910,000 株

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われた仮定して期末発行済株式数(自己株式を含む)及び期中平均株式数(四半期累計)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、個人消費や生産など一部に弱さがみられ、また中国・新興国経済の成長の鈍化や原材料価格の高騰等の不安材料もあり、先行き不透明な状況は続いております。

当社グループの主な事業領域である金融・不動産市場では、大胆な金融緩和政策をはじめとした経済財政運営に対する期待感を背景に国内金融・不動産市場にも持ち直しの動きが見られるものの、地価の上昇や建築コストの高騰及び消費税増税後の景気動向も不透明であり、未だ楽観視できない状況にあります。

このような市場環境の下、当社グループは、不動産を核とした事業展開をより深耕させ、新たな収益機会と投資家の獲得に努めて参りましたが、第1四半期連結累計期間においては、実績として積み上がるまでには至りませんでした。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は109百万円（前年同四半期比8.5%減）、営業損失は26百万円（前年同四半期は7百万円の営業損失）、経常損失は43百万円（前年同四半期は21百万円の経常損失）、四半期純損失は45百万円（前年同四半期は24百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (投資事業)

投資事業につきましては、当社保有の不動産からの賃料収入、ゴルフ場売上等の結果により、投資事業の売上高は107百万円（前年同四半期比9.1%減）、セグメント損失（営業損失）は28百万円（前年同四半期は8百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。

#### (アセットマネージメント事業)

アセットマネージメント事業につきましては、アセットマネージメント業務報酬、ファンドからの管理フィー等を計上したこと等の結果により、アセットマネージメント事業の売上高は0.4百万円（前年同四半期比増減なし）、セグメント利益（営業利益）は0.4百万円（前年同四半期比4.9%増）となりました。

#### (その他の事業)

その他の事業につきましては、アドバイザー業務報酬等の結果により、その他の事業の売上高は0.7百万円（前年同四半期比432.4%増）、セグメント利益（営業利益）は0.5百万円（前年同四半期比167.1%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、194百万円増加し、3,516百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が104百万円、流動資産のその他が101百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、29百万円増加し、2,439百万円となりました。その主な要因は、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。）及び長期借入金が24百万円、流動負債のその他が9百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、164百万円増加し、1,076百万円となりました。その主な要因は、四半期純損失により利益剰余金が45百万円減少した一方、転換社債型新株予約権付社債の転換及び新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ104百万円増加したこと等によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績等を勘案した結果、平成26年5月15日に発表致しました平成27年3月期の連結通気業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、営業利益6百万円、当期純利益57百万円を計上し、黒字転換しておりますが、経常損益では、38百万円の経常損失を計上しております。当第1四半期連結累計期間においても、営業損失26百万円、経常損失43百万円、四半期純損失45百万円を計上しております。

このため、継続的な収益計上するには至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該事象又は状況を改善・解消すべく、以下のとおり、安定した収益の確保、コスト削減、財務基盤の強化及び資金の確保等により安定した経営を図って参ります。

株式会社兵庫宝不動産をはじめとした業務提携先の保有不動産等の情報を中心に流動化（売却）事業を推進し、安定した売上と利益の向上を図ります。さらに、国内外の不動産、国内外の投資家を対象とした仲介及び各種アドバイザー業務の取り扱い件数を増やすなど、多方面からの収益の増加を図ります。

一方、平成26年5月23日開催の取締役会において、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社に対して第三者割当増資による第1回転換社債型新株予約権付社債及び第4回新株予約権の発行を決議致しました。当第1四半期連結累計期間において、すべての社債の転換及び新株予約権の行使が完了し、更なる収益確保等のため総額209百万円の資金調達を図っております。

さらに、継続して、役員報酬の減額や業務提携先との協働をはじめとした業務の効率化等、安定的な収益に見合った組織体制・コスト構造への転換を進めて参ります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	200,623	304,799
売掛金(純額)	13,653	10,860
商品	5,449	5,037
貯蔵品	909	2,495
その他	106,236	208,232
流動資産合計	326,871	531,425
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	126,559	124,461
その他(純額)	168,075	169,473
有形固定資産合計	294,634	293,934
無形固定資産		
その他	557	491
無形固定資産合計	557	491
投資その他の資産		
投資有価証券	750,132	749,595
投資不動産(純額)	1,910,560	1,902,886
その他	39,471	37,907
投資その他の資産合計	2,700,164	2,690,389
固定資産合計	2,995,356	2,984,815
資産合計	3,322,228	3,516,240
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,499	3,316
短期借入金	696,396	707,276
1年内返済予定の長期借入金	628,417	635,917
未払法人税等	5,344	1,786
その他	87,463	97,329
流動負債合計	1,420,120	1,445,626
固定負債		
長期借入金	975,135	980,989
その他	14,629	12,694
固定負債合計	989,764	993,683
負債合計	2,409,885	2,439,309
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,025,363	1,130,065
資本剰余金	890,350	995,052
利益剰余金	△1,642,179	△1,687,809
株主資本合計	273,534	437,308
少数株主持分	638,807	639,622
純資産合計	912,342	1,076,930
負債純資産合計	3,322,228	3,516,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	119,155	109,017
売上原価	24,696	24,080
売上総利益	94,458	84,936
販売費及び一般管理費	101,666	111,541
営業損失(△)	△7,207	△26,604
営業外収益		
受取利息	99	1,252
貸倒引当金戻入額	-	1,865
その他	505	609
営業外収益合計	604	3,727
営業外費用		
支払利息	13,927	11,726
支払手数料	250	247
新株予約権発行費	-	5,598
その他	360	2,623
営業外費用合計	14,537	20,196
経常損失(△)	△21,140	△43,072
特別損失		
事業所閉鎖損失	1,268	-
出資金評価損	-	930
原状復旧工事費用	-	640
特別損失合計	1,268	1,570
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純損失(△)	△22,408	△44,643
匿名組合損益分配額	△198	△604
税金等調整前四半期純損失(△)	△22,210	△44,039
法人税等	1,645	776
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△23,855	△44,815
少数株主利益	794	814
四半期純損失(△)	△24,650	△45,630



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△23,855	△44,815
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△1,608	-
その他の包括利益合計	△1,608	-
四半期包括利益	△25,464	△44,815
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△26,258	△45,630
少数株主に係る四半期包括利益	794	814

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、営業利益6,718千円、当期純利益57,045千円を計上し、黒字転換しておりますが、経常損益では、38,918千円の経常損失を計上しております。当第1四半期連結累計期間においても、営業損失26,604千円、経常損失43,072千円、四半期純損失45,630千円を計上しております。

このため、継続的な収益計上するには至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該事象又は状況を改善・解消すべく、以下のとおり、安定した収益の確保、コスト削減、財務基盤の強化及び資金の確保等により安定した経営を図って参ります。

株式会社兵庫宝不動産をはじめとした業務提携先の保有不動産等の情報を中心に流動化（売却）事業を推進し、安定した売上と利益の向上を図ります。さらに、国内外の不動産、国内外の投資家を対象とした仲介及び各種アドバイザー業務の取り扱い件数を増やすなど、多方面からの収益の増加を図ります。

一方、平成26年5月23日開催の取締役会において、マイルストーン・キャピタル・マネージメント株式会社に対して第三者割当増資による第1回転換社債型新株予約権付社債及び第4回新株予約権の発行を決議致しました。当第1四半期連結累計期間において、すべての社債の転換及び新株予約権の行使が完了し、更なる収益確保等のため総額209,403千円の資金調達を図っております。

さらに、継続して、役員報酬の減額や業務提携先との協働をはじめとした業務の効率化等、安定的な収益に見合った組織体制・コスト構造への転換を進めて参ります。

しかしながら、上記のすべての事業が計画通り実現するとは限らないため、現時点においては、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結会計期間において、平成26年6月9日に発行した第4回新株予約権の全てが行使されたことに伴い、資本金が79,701千円、資本準備金が79,701千円増加しております。また、平成26年6月9日に発行した第1回転換社債型新株予約権付社債が行使されたことに伴い、資本金が25,000千円、資本準備金が25,000千円増加しております。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金が1,130,065千円、資本準備金が995,052千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	投資事業	アセット マネージメント 事業	その他の事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	118,525	480	150	119,155	—	119,155
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	60	150	210	△210	—
計	118,525	540	300	119,365	△210	119,155
セグメント利益又は損失(△)	△8,343	464	199	△7,680	472	△7,207

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額472千円は、セグメント間取引消去額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	投資事業	アセット マネージメント 事業	その他の事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	107,738	480	798	109,017	—	109,017
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	60	150	210	△210	—
計	107,738	540	948	109,227	△210	109,017
セグメント利益又は損失(△)	△28,110	486	533	△27,090	486	△26,604

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額486千円は、セグメント間取引消去額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。